

のぼりべつ

広報

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ

8月8日(土)、郷土資料館で笹舟づくりと流しそうめん試食会が行われました。

参加した親子ら約20人は、昔ながらの笹舟を作って川で遊んだ後、お楽しみの流しそうめんで昼食。流れるめんをはしですくい上げては口に入れ、「おいしいね」と登別の短い夏を楽しんでいました。



特集

悲しみを最小限で
食い止めるために

『阪神・淡路大震災』を引き起こした兵庫県南部地震は、人口200万人を超す大都市圏を襲った都市直下の大地震。わずかに10秒ほどで家屋やビルが崩壊し、多くの人命が失われ、近代的都市が無残ながれきの山と化しました。

悪夢のような震災からはや3年。

「地震は本当に恐ろしいもの。日ごろから地震に備えなければ」とだれもが思ったあの日の教訓は、私たちの生活に生かされているのでしょうか。

天災は忘れたころにやってきます。

9月1日の防災の日にちなみ、もう一度地震に関する知識や被害を最小限に食い止めるための防災について考えてみませんか。

特 集

悲しみを最小限で
悲しみを最小限で
食い止めるために
食い止めるために



関東大震災

大正12(1923)年9月1日、関東南部で起こった巨大地震「関東大震災」がもたらした大震災。

全体の被害は、死者・行方不明者14万2千余人、全・半壊家屋25万4千余戸、焼失家屋44万7千余戸というまれに見る大災害となった。

この大災害は、地震による被害も甚大だが、地震後に東京・横浜はじめ各地で起きた火災が被害を拡大したためともいわれ、大規模火災により本所被服廠跡では、約4万4千人が亡くなった。

また、関東沿岸を津波が襲い、熱海では12mの高さに達した。

関東大震災以来の大災害

「阪神・淡路大震災」

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部の北緯34・36度、東経135・02度、深さ16kmを震源とするマグニチュード7・2の地震、「兵庫県南部地震」が発生。平成5(1993)年に発生した北海道南西沖地震の奥尻島の被害などで、津波の恐ろしさは再認識していましたが、ある意味で地震慣れしている私たちにとって、マグニチュード7級の地震が発生したと聞いてもさほどの衝撃はありませんでした。

しかし、テレビやラジオから流れてくる映像や速報は、私たちのそんな「慣れ」など吹き飛ばしてしまうほどの衝撃でした。高速道路が横倒しになり、下敷きとなった自動車。線路がうねり、脱線した電車。そして、神戸の空を覆う真っ黒な煙。

大地震に対応できるはずの建造物が一瞬で崩壊し、大自然の脅威の前には人知などなす術が無いとだれもが痛感

したのではないのでしょうか。

関東大震災以来の極めて甚大な被害を出したこの震災は「阪神・淡路大震災」と名付けられ、あらためて地震の恐ろしさを私たちに思い出させました。

この地震によって、津波以外のいろいろな地震災害が発生し、死者・行方不明者約6千300人、負傷者は約4万3千人にのぼり、市役所、消防署、病院などの施設の倒壊を含め、20万棟以上の家屋が全半壊し、都市生活の生命線である水道、電気、ガスなども壊滅的な打撃を受けました。

被害を最小限に食い止める、それが「防災」

現在の科学力では、地震の発生を防ぐことはもちろん、地震の完べきな予知もすることはできません。

しかし、地震による被害を最小限に食い止めることや地震に対する備えは十分にすることが出来ます。

阪神・淡路大震災での死因のほとんどは、建物や家具などによる圧死と火

災害時に備えて

食べ物と水、そして着るものが必要

非常持出品



常備品



災であったといわれています。

家の家具を金具などで固定し、地震が発生しても倒れないようにする。寝室などの家具がもし倒れてきても、つぶされないように配置を工夫する。ちよつとした工夫で、地震による被害をかなり抑えることができます。

それでは、火災はどうでしょうか。阪神・淡路大震災では、地震直後に発生した火災が、神戸のまちを約80%にわたって焼き尽くしました。もちろん、消火活動が行われなかったために、火災による被害が大きくなったわけではありません。懸命な消火活動が行われたにもかかわらず、火災はなかなか鎮火しませんでした。

まちには、消防署が設置され、市内の各地区で発生した火災に対応できるよう消防車両などを配置していますが、

まちの至る所でほぼ同時に発生した大火災を一度に鎮火することはまず不可能です。

ましてや倒壊したビルや電柱、そして、安全な場所を求めて避難する一般車両が消防車などの緊急車両の行く手を阻めば、スムーズな消火活動を行えるはずがありません。

「地震がおさまったら速やかに火の始末をする」「必ず避難は徒歩で、自動車などは使わず、荷物を少なくする」などの心得を守ること、火災などの二次災害による被害を少なくできるはずです。

自己の身の安全を考えることはもちろん大切ですが、われ先にと自動車で避難するような自分勝手な行動は、いたずらに被害を大きくするだけだと心掛けるべきではありません。

二次災害は人災。常日「ろから注意を」

平常時であれば、地震が発生したときによろしい行動をとるべきか、どんなことをしてはいけないかは判断できませんが、いざ地震が発生するとパニックを起こし、まともな対応ができない場合があります。

常日ごろから、地震への心の備えを怠らないようにしたいものです。

- ①地震が発生したら
 - ・身を守る（テーブルの下などへ）
 - ・すばやく火の始末（ガスやストーブ、アイロンなど）
 - ・脱出口の確保（ドアや窓を開ける）
 - ・揺れがおさまったら
 - ②揺れがおさまったら
 - ・火元の確認（もし火が出たら、落ちて初期消火）
 - ・家族の安全確認（倒れた家具などの下敷きになっていないかを確認）



▲市民便利帳についての問い合わせは、企画広報室 (☎1122)

津波、がけ崩れなどが予想される地域は落ち着いて避難する
・家屋の安全確認（壊れた所、壊れそうな所を確認）

③隣近所に声をかける
・隣近所で助け合う（お年寄りや幼児の安全確保や初期消火）

・行方不明者、けが人はいないか
・ガスもれしているところはないか

協力が、命を救う。声を掛け合い、助け合い

地震が発生したら、ラジオやテレビで情報を的確に収集し、デマなどに惑わされないことが肝心です。

近所同士で安全確認を行い、海そばに住んでいる人は速やかに高台へ避難することが大原則です。

登別市内には、一時的に避難する公園や広場などの第1次避難所（屋外）が60カ所、避難した人たちを収容する第2次避難所（屋内）が96カ所あります。今年の4月に配布した「市民便利帳」の18ページから26ページをよく読み、日ごろから避難路や避難所を確認しておくことが大切です。

◆避難するときは

- ①避難する前に、もう一度火元を確認し、ガスの元栓を閉める
- ②服装は長そで・長ズボンを着用する
- ③荷物は最小限にし、リュックサックのような背負えるものにする
- ④外出中の家族には、避難先などを書いたメモを残す

⑤車は使わずに、徒歩で避難する
⑥お年寄りや子どもの手はしっかりと握る

震度とマグニチュードの違いを知っていますか

地震が発生すると、ラジオやテレビなどで震源地やマグニチュード、各地の震度を知ることができます。しかし、意外と区別されていないのが震度とマグニチュードの違いです。震度とマグニチュードとは何でしょう。

◆震度
「震度」とは、ある地点における地面のゆれの強さを表す数値。震度は、震源から遠ざかるにつれ小さくなりませんが、観測点の条件が異なれば100%離れた地点、建物の種類や階数などによっても差が出る場合があります。

兵庫県南部地震では、気象庁の観測点で最も高い震度の報告は神戸、洲本の震度6。しかし、建物の崩壊があまりにもひどかったため、気象庁は建物被害調査チームを多数編成し、現地調査の結果、神戸と淡路島北部などの被害の大きかった地域を「震度7」としました。

「震度7」は、昭和23（1948）年に起きた福井地震の被害が大きかったため、その翌年に新たに設けられた震度階級で「激震。家屋の倒壊が30%以上に及び、山崩れ、地割れ、断層などを生じる」ときに適用するとされ、兵庫県南部地震、初めて「震度7」が

登別市が締結している協定

登別市では、災害時に迅速かつ円滑な応急復旧ができるように、行政機関や各種団体などと協定を結んでいます。今年の7月7日には、登別郵便局と災害時における協定を締結しました。（写真）



- ①「登別市防災協力員無線基地局に関する協定」(旧)日本アマチュア無線連盟登別オフレッククラブ（昭和56年7月3日締結）
- ②「災害時における相互援助に関する協定書」宮城県白石市（平成7年3月14日締結）
- ③「災害時における相互援助協定」新潟県豊栄市、東京都福生市、三重県久居市、滋賀県守山市、山口県新南陽市（平成7年11月9日締結）
- ④「室蘭・登別・伊達三市防災協定」室蘭市、伊達市（平成8年1月17日締結）
- ⑤「災害時における相互援助に関する協定書」白老町（平成8年5月28日締結）
- ⑥「北海道消防防災ヘリコプター応援協定」北海道（平成8年6月25日締結）
- ⑦「震度情報ネットワークシステムに係る協定書」北海道（平成9年4月1日締結）
- ⑧「災害時における北海道及び市町村相互の応援に関する協定」北海道（北海道市長会委任）（平成9年11月5日締結）
- ⑨「災害情報の通報に関する協定書」室蘭ハイヤー協同組合（平成9年12月16日締結）
- ⑩「災害時の医療救護活動に関する協定書」(旧)室蘭市医師会（平成10年1月6日締結）
- ⑪「災害時における応急対策用貨物自動車への供給に関する協定」(旧)室蘭地区トラック協会（平成10年1月17日締結）
- ⑫「災害時における登別市内郵便局及び登別市の相互協力に関する協定」登別郵便局（平成10年7月7日締結）

気象庁震度階級関連解説表

震度は、地震動の強さの程度を表すもので、震度計を用いて観測します。

この『気象庁震度階級関連解説表』は、ある震度が観測された場合、その周辺で実際にどのような現象や被害が発生するかを示すものです。

計測震度	震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況
0.5	0	人は揺れを感じない。		
	1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。		
1.5	2	屋内にいる人の多くが、揺れを感じる。眠っている人の一部が、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	
2.5	3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。恐怖感を覚える人もいます。	棚にある食器類が、音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
3.5	4	かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。歩いている人も揺れを感じる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
4.5	5弱	多くの人が、身の安全を図ろうとする。一部の人は、行動に支障を感じる。	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。補強されていないブロック塀が崩れることがある。道路に被害が生じることがある。
5.0	5強	非常な恐怖を感じる。多くの人が、行動に支障を感じる。	棚にある食器類、書棚の本の多くが落ちる。テレビが台から落ちることがある。タンスなど重い家具が倒れることがある。変形によりドアが開かなくなることがある。一部の戸が外れる。	補強されていないブロック塀の多くが崩れる。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。多くの墓石が倒れる。自動車の運転が困難となり、停止する車が多い。
5.5	6弱	立っていることが困難になる。	固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。戸が開かなくなることが多い。	かなりの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
6.0	6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。	固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸が開かなくなることが多い。	多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
6.5	7	揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。

※計測震度とは、その地点における揺れの強さの程度を数値化したもので、震度計により計測されます。一般に発表される震度階級は、計測震度から換算されます。

適用されました。
兵庫県南部地震発生時点で震度6とされたのは、気象庁職員の実感や周囲の状況で震度を決定する従来の方式が適用されていたためで、現在では、震度計による観測値に基づいて震度を決め、より速い判定を行っています。
また、従来は震度を0から7までの8階級に分けていましたが、平成8年から震度5と6を「強」と「弱」に分け、10階級としています。
◆マグニチュード
地震の規模を表すのが、「マグニチュード」(Mと略記)。マグニチュードは、地震計に記録された地震波の振幅から計算されます。
地震は、地下の岩盤の破壊(すれ)などから発生しますが、そのとき大量

のエネルギーが放出されます。それが地震波となり地表を上下左右に揺らします。マグニチュードが1増えるとエネルギーは約30倍、2増えると約1千倍はM6の地震1千個分にあたります。
マグニチュードと地震の関係は、電球自体の明るさと部屋の中の明るさに置き換えるとよく分かります。電球の明るさは、その元である消費電力で決まります。
しかし、部屋の明るさは、それを測定する場所によって異なります。光源から遠ざかれば明るさは低くなるのが普通です。
この場合、消費電力がマグニチュード、ある場所の明るさが震度にあたります。

自分の命は自分で守る。 防災の第一歩は一人ひとりの備えから

「どの元過ぎれば熱さを忘れる」のことわざのように、どんなに苦しいことやつらいことでも、それが過ぎ去ってしまえば、人はなにごとにもなかつたかのように忘れてしまうものです。
私たちは、遠隔地で起きた災害の映像をテレビなどで目の当たりにしても、自分とどこか遠くはこんな災害は起きない、あくまでもこれはよその話と思いつつ、いざというときが多々あるのではないだろうか。私たちが、何の根拠もなしに「災害は起きない」と思い込むのは、「自分のところで災害は起きないで欲

しい」と願う心の裏返しに過ぎません。災害は私たちの意思や思い込みに関係なく発生します。
いつ発生するか分からない災害に対し、市は「登別市地域防災計画」に基づき、総合防災訓練などを実施するほか、行政機関や各種団体などと協定を結び、災害時に円滑な応復旧ができるようにしています。
しかし、いかに行政の災害対策が充実しても、防災には限りがあります。私たち、一人ひとりが、これまで各地で起きた災害を教訓に、自分がしなければいけないこと、自分にできることを理解する。そして、自己本位にならず、助け合い協力し合う心が、被害を最小限に食い止める大きな力「防災」になるのではないだろうか。

大盛況！『豊水まつり』

7月18日(土)・19日(日)の2日間、中央町のショッピングセンター・アーニス周辺で、『'98のぼりべつ豊水まつり』(同実行委員会主催)が開かれ、多くの見物客が祭りを満喫しました。昨年に引き続き行われた『よさこいソーラン』では、登別・室蘭の6チームが出場し、華麗な舞を披露。沿道から水を掛けられ会場を練り歩いた『豊水裸みこし』や河内音頭五月会による本場『河内音頭』など、数々の新企画に会場は盛り上がり、にぎわった2日間は、新イベント『素人カラオケ紅白歌合戦』で幕を閉じました。



親子で体験、空き缶炊事

7月25日(土)、鉾山町で『ふるさとワクワク探検隊』(登別市ふるさと広場実行委員会主催)が行われました。この催しは、小学1～2年生の親子を対象に今回初めて行われたもので、この日は7組14人が参加。

参加者は、市民研修センターから約1.5kmを歩き、幌別川上流の河原に到着。早速、登別レクリエーション協会会員の指導を受け、石で作ったかまどに炭火をおこし、ジュースやビールの空き缶を利用した手作りの飯ごうでご飯炊きを体験。およそ30分で炊き上がったご飯を食べながら、親子のふれあいを楽しみました。



手作り露店が大にぎわい

8月1日(土)・2日(日)の2日間、グリーンピア商店会と若草・新生地区住民の手作りによる夏祭り『登別グリーン・ピアサマーフェスティバル』が若草中央公園で開催されました。

会場には、くじ引きや金魚すくい、かき氷など約40店の露店が軒を連ね、浴衣姿の子どもたちや家族連れでにぎわいました。

1日(土)に行われた『よさこいソーラン』では、『のぼりべつ舞・舞・舞』のほか、室蘭から3チームが出場。華麗な踊りの競演が、祭りを一層盛り上げました。



見事なスティックさばき

第12回北海道身体障害者ゲートボール大会(北海道障害者スポーツ振興協会、登別市など主催)が7月25日(土)、総合体育館で行われ、道内各地から集まった手や足などに障害をもつ選手たちが優勝を目指して、日ごろの練習の成果を余すことなく発揮していました。

この大会は、登別市では初の開催で、地元登別市のチームのほか、札幌市、留萌市など全道29市町村から約320人が参加。雨天のため、会場が市営陸上競技場から総合体育館に変更されましたが、選手のプレー一つひとつに、観客席から大きな声援が送られていました。



自然とまるごと触れ合いました

7月31日(金)から8月2日(日)の3日間にわたり、鉾山町の市民研修センターを中心に、ふるさと学習推進事業「まるごとアドベンチャーライフ」(登別市ふるさと広場実行委員会主催)が開催され、市内の小中学生37人が参加しました。

子どもたちは、竹筒や飯ごうを使ったご飯炊きやテント設営、地下足袋とわらじを履いた沢登りにチャレンジ。「腰まで沢水に漬かったり、滝つぼを登ったり、ちょっと怖いけど楽しかった」と、自然との触れ合いに満足そうでした。



図鑑を片手に自然散策

8月4日(火)、登別温泉の日和山^{ヒヨクヤマ}周辺で植物観察会が行われました。この催しは、8月1日から7日の観光週間に合わせ、観光道徳の高揚と観光資源の保護を目的に、(財)自然公園美化管理財団登別支部と登別市観光ホスピタリティ推進協議会の共催で開催されたもので、約20人の市民が参加しました。

日和山の森林浴コースから入山した参加者たちは、エゾリンドウなどのきれいな花を見つけては持参した図鑑と見比べ、「登別山野草の会」の今田友一^{いまだともいち}さんの説明に聞き入っていました。

第25回難病患者・障害者と家族の全道集会(登別大会)

財団法人北海道難病連



安心できる闘病・療養生活を

8月2日(日)、市民会館をメイン会場に、「第25回難病患者・障害者と家族の全道集会」(北海道難病連主催)が開催されました。この催しは、難病に苦しむ患者とその家族が、日ごろ直面している課題を社会にアピールし、難病問題への理解を深めることを目的として行われ、全道から約800人が参加しました。

分科会に引き続き行われた全体集会では、特別アピールとして、難病など特定疾患を対象とした長期専門治療を行う広域医療機関として国立登別病院を存続し、機能の充実を求める決議を行い、閉会しました。



市民リポート



▲アイヌ語で「神さまの・山」を意味するカムイヌプリ



登ってみたいようふるさとの山 愛でよう山に咲く花々

カムイヌプリ

緑豊かな登別市には、大自然と触れ合えるところがたくさんあります。山があり、そして川があります。その気になればすぐにでも大自然と一体になることができます。

そんな自然環境に恵まれたこのまちで、今回は身近に登ることができるふるさとの山「カムイヌプリ」とカムイヌプリに咲く「花」をリポートしました。

登山には手ごろな山

「カムイヌプリ」

カムイヌプリは、JR 幌別駅西口を背にして北西の方角を見ると「ドーン」とすそを広げている山です。標高は750と低いものの、川を渡ったり、ちょっとしたロッククライミング(?)を楽しめたり、気軽に大自然と遊ぶことができる魅力的な山です。

幌別市街からも近く、川上公園から数百メートルほど鉦山町に向かうと、道路左脇に「カムイヌプリ登山入り口」の案内板を見つけることができます。そこから未舗装の「トラシナイ林道」(落石に注意)を10数分ほど車を走らせると、先ほどの案内板よりさらに大きな「カムイヌプリ登山口」と書かれた案内板が目に入ります。

車で登れるのはここまでで、無事下山するまで、愛車は駐車スペースで少しの休息。

登山道はしっかり整備されており、この登山口から頂上までの行程は約2.5キロ。約1時間40分の道のりです。

登山届箱の中のノートに日時や住所、氏名などを記入して、いざ出発。登山届けのノートには、地元の人はもちろん、札幌、旭川など遠くから登りに来ている人たちの名前が目につきます。

登山道沿いの花々が、登山者の疲れをいやしてくれる

歩きだしてすぐに小さな川を飛び石伝いに渡ると少々きつめの登りがあり、毎年5月ごろには「ミヤマエンレイソウ」や「エゾエンゴサク」、小さくてかわいい「ヒメイチゲ」などを見



▲左下: エゾアジサイ 右下: オオカメノキ

ることができません。「オオカメノキ」も白い花をつけ目を惹かせてくれます。川のふちを見ればピンクの「エゾオオサクラソウ」が、対岸の土壁には「シラネアオイ」が満開で咲いていて「春はいいなあ」と感じさせてくれます。

2本目の川を渡ると、こちら辺りは7月の末ごろから「エゾアジサイ」がいっぱい咲きます。「ブルー」がなんとも言えないすてきな色、真夏の濃い緑をバックに最高に際立ち、思わず足を止めて見入ってしまいます。

そうこうしていると昼間でも暗いトドマツの植林地の中へ。日差しは強い夏は大変涼しくて気持ちよく感じます。この林を抜けると川の源流部に近い5合目。手製のベンチがあり、休憩するのにはもってこいの場所です。すぐ上を流れている川の冷たい水で顔を洗い、さっぱりしたところで再び山頂へ。

この近辺では、春になると「エゾノリュウキンカ」(ヤチブキともいう)が派手な黄金色で迎えてくれます。この水場から6合目にかけての急登が「ナミダ坂」といってカムイヌプリの名物の一つです。夏の暑い日などには汗が吹きだすくらいの傾斜のきついところですよ。



市民リポーター

まつばら じょういち さん
松原 一 さん
(新生町・51歳)



▲登山開始はここから ▲トラシナイ林道入口にはこの看板が



▲カムイヌプリ頂上



▲カムイヌプリ山頂から見た幌別市街

6合目の山小屋「カムイヒュッテ」で休憩

急登も終わりに近づき上方が開けてくると、山小屋「カムイヒュッテ」が広場の中に姿を現わします。「ほっと」ひと息つけるところです。

6合目にあたるカムイヒュッテ周辺には、ベンチやらテーブルが置いてあり、荷をおろして一休み。傍らのベンチに座ると心地よい風が通り抜けます。

カムイヒュッテは、登別山岳会の所有で、希望者に開放しています。普段は施設していますが、カギを借り宿泊することもできます。

山小屋のある6合目から7合目にかけてはカムイヌプリ最大の難所(?)です。7〜8分も歩くと登山道をささぎる高さ3mほどの大岩があり、そこを越えなければ頂上に行き着くことはできません。

備え付けのロープを伝って、四肢を緊張させ慎重に登ると、さらに10mくらい上までロープが付けてあり、岩と



▲平成2年に完成した登別山岳会手作りの山小屋

岩との間を登っていきます。ミニロッククライミングを楽しんだ後はすばらしい展望を楽しむことができ、はるか下のほうにエメラルドグリーンに光り輝く幌別ダムが見えます。



▲両手両足を使い、登り下りは慎重に

春には、抜けるようなピンクの「ムラサキヤシオ」が「オオカメノキ」との競演に思わず声が出ます。

何カ所かの急登をクリアし、いよいよ最後の登りにかかるころ、ふっと気が付くと樹肌のきれいな白樺の林の中を歩いています。林と登山道の境目には、望遠鏡のような形をした「ギンリョウソウ」がニョキニョキと生えています。腐生植物の彼らは葉緑素を持っていないので全身真っ白。またの名を「ユウレイタケ」。こちらの名のほうがピッタリという感じです。

頂上からの展望は

最高の気分

頂上に立つと、太平洋が眼下に広がり、その向こうには恵山から駒ヶ岳ま

での山並みが一視線に見えます。西となりの鷲別岳(室蘭岳)もすぐそこにあります。展望がすばらしく、よく晴れた日にオニギリでもほお張れば最高の気分浸れると思います。「自然と仲良くできた日」に感謝感謝です。

カムイヌプリは、近くてとてもいい山です。下山時にはタケノコやフキ、コゴミなどを少々いただいで家で食べると、今日一日の自然とのかかわりに幸せを感じます。



▲カムイヌプリ頂上。写真は5月17日(日)、登別山岳会の主催で行われた市民登山会

今回のレポートでは、山に咲く花々の写真の全部を紹介するのは掲載スペースの関係からできませんでしたが、カムイヌプリの花々は、春から夏にかけて咲き誇ります。

直接、ご自分の目で確かめて花を楽しんでください。

みなさんも一度、ふるさとの山「カムイヌプリ」に登られ、心地よい汗がかけられることをお勧めします。



しげぞまり

老人保健施設「グリーンコート三愛」
中登別町24番地113 (☎0111)



やまだなおや 山田直哉さん

昭和48年7月生まれ。25歳。グリーンコート三愛がオアブンしはた平成6年5月か勤務。現在フケアワーカーを統括するチーフアワーカーとして活躍中。

「三愛病院や特別養護老人ホーム「緑風園」などを運営する医療法人社団千寿会（千葉善良理事長）が、平成6年5月に開設した老人保健施設「グリーンコート三愛」（千葉奈二施設長）は、本格的な高齢化社会に対応するため市が策定した高齢者保健福祉計画に沿う新しいタイプの施設で、病院と老人福祉施設の中間的な機能を備えています。

グリーンコート三愛は、緑豊かな自然環境に恵まれた小高い所に位置し、春は桜のトンネル、秋は紅葉を楽しむことができ、お年寄りが療養生活を送るには最適な環境にあります。また、浴室に温泉を利用するなど、施設の随所に工夫が施され、市内はもとより、札幌方面からの入所希望もあるそうです。

この施設では、病状が安定し、入院治療をするほどではないが、家庭での生活に不安を持っている方、リハビリや介護・看護が必要な70歳以上の方、障害をもつ65歳以上の方などを対象に、入所のほか、各家庭から専用バスで送迎して入浴や食事、機能回復訓練などを行うデイケア（日帰り介護）サービスやお年寄りを介護している家族が、病气や冠婚葬祭、介護疲れなどにより一時的に在宅での介護ができなくなったときにお年寄りのお世話をするショートステイ（短期入所）などのサービスを提供しています。常時、

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

登別オロフレクラブ



登別オロフレクラブは、登別市内に居住または勤務する人を対象としたアマチュア無線のサークル。地域に密着したクラブをつくらうと、昭和45年に会が結成されました。

現在の会員は、小学3年生から80代までの84人。情報交換や無線の技術指導を兼ねた会合や年1回のキャンプのほか、アマチュア無線の競技大会に参加するなど、会員同士の交流や技術の向上を図っています。

「アマチュア無線を始めるには、国家試験を受けて、免許を取得しなければなりません。免許さえあれば、日本国内だけでなく世界各国へ電波を飛ばすことができます。見ず知らずの人と交信できるのが何よりの楽しみですね」と語るのは同クラブ会長の高橋勝之さん（63歳）。

登別に大きな被害をもたらした、昭和55年の集中豪雨では、クラブの会員によるアマチュア無線が活躍しました。電話が不通となり、市内の

顔は見えなくても心に届く。国境を越え、電波が結ぶ
遥かな友との出会い。



各地区で刻一刻と変わる被害状況を無線で市役所に通報するなど、会員の迅速な情報伝達が市の防災活動に一役買いました。これをきっかけに市とクラブが防災協定を結び、現在は9人の会員が防災協力員として、市内各地区に配置されています。

「私たちの活動は、あくまでも趣味の一つとして、アマチュア無線の技術向上を目的としています。年齢に関係なく共通の話題が楽しめるので、家族同士で免許を持っている会員も大勢いるんですよ。ちなみに、私たちのクラブのコールサインは「JA8YIO」。アマチュア無線をお持ちの方はお気軽にコールしてください」と語る高橋さん。

入会を希望する方は、高橋さん（☎2152）までどうぞ。

ちよつと ひとごと

楽しかったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、市への疑問や意見・要望などを企画広報室へ電話やはがき、封書、ファクスでお寄せください。紙面上では匿名でも氏名、住所、電話番号をお知らせください。なお、個人や団体への中傷や営利を目的としたお話はご遠慮ください。

企画広報室 中央町6-11
☎1122 FAX051108



花だけではなく私たちの心も盗む花泥棒

私たちは、鶯別公民館の前庭に花を植えて育てている「なかまち会登別西部分会」のボランティアグループです。

6月25日に植えたばかりのサルビアとペゴニアが7月10日に7株、12日に3株と立て続けに盗まれました。植えてから間もないので、根付いていなかった花を引っっこ抜いて盗んだ花泥棒。

雨が降っているときを除いて、ほとんど毎朝、水をやりたり雑草を取ったりしていたのに本当に残念です。

ここの花が盗まれるのは、今回が初めてではありません。去年も盗まれました。去年は、プランターに植えている花も盗まれました。

まちを花でいっぱいにしてしようとする運動が、市民憲章推進協議会を中心に行われているのに、こんな行為をする人間がいるとは悲しいことです。

ここに植えてある花は、市民みんなが見て楽しむものです。自分の庭に盗んだ花を飾っても美しくも何ともありません。もうやめてください。

(鶯別町 69歳男性)

80人のお年寄りが入所し、デイケアのため毎日約20人が来所する同施設では、医師、ケアワーカー（介護福祉士）、看護婦など総勢40人のスタッフがかきめ細かいサービスを行っています。

「お年寄りに、毎日を楽しく過ごしていただけるようにいろいろな工夫をしています。お年寄りの今持っている能力を最大限に使っていただくよう心掛けています。みんなで一緒に花壇や建物のまわりに花を植え、自然とのふれあいを楽しんだり、また、食事のお膳は出来るだけ自分で下げ、一部の方にはエレベーターを使わずに階段を使っていたりしています。「出来ることは自分でする」が基本で、お年寄りへの必要以上の手助けがむしろ自立への妨げになり、寝たきりの原因となってしまうのです」と話す山田直哉さん。

「リハビリは、お年寄りに欠かすことのできないものですが、無理に行うのではなく、昔の遊びも取り入

れるなどレクリエーションを兼ねて、楽しみながら自然に体を動かすように心掛けています。お年寄りからみるとぼくは孫のような存在。お年寄りに、心を込めてお世話をするようにしています。ゆとりある生活のなかで、もう一度生きがいを見つめ、自立していただくのがぼくたちの役割と思っています」と語る山田さんは、明日の高齢化社会を支えます。

ケアワーカーによる機能回復訓練



あすなろ

ほりもとたかふみ

堀本崇文さん (25歳)

室蘭商工信用組合登別支店勤務

お客さまが喜ぶようなサービスを
目指します



「登別支店の勤務は、2カ所目で丸2年になります。現在は渉外係として、主に商店などの売り上げ金やお客さまからの定期積金などの集金をしています」と、朝から夕方まで外回りを精力的に行っている堀本さん。大学を卒業後、地元登別で働きたいと考え、同組合に就職しました。

「誠実さをモットーにお客さまに喜んでもらえるようなサービスを心がけています。かゆいところに手がとどくようなサービスにも努めています。今年、当組合40周年の節目なので、もっとお客さまに喜ばれるような新たなサービスを提供していきたい」と話す堀本さんはプロの雰囲気満ちています。



**革製品の製造を通して、
障害をもつ方の自立を支援
したい**

「身体に障害をもつ方の自立に何かお手伝いできないかと一念発起し、作業所を開設しようと思いを立ちました。新日鐵を退職し、札幌の革製品製造専門店で革製品の製造技術を学んだあと、市のバックアップを受けて新店舗の確保や開設準備を進め、昨年の4月24日にオープンしました」と話す今川さん。

現在、この地域共同作業所では、障害をもつ方5人と指導員が3人、そして今川さんの9人が働いています。

「瑞樹」では、赤平市に本社がある「E.mi」というブランド名のメーカーからの注文に応じて革

製品を製造しているほか、店内でビジネスバッグや婦人用セカンドバッグ、財布、キーホルダーなど、さまざまな革製品を販売しています。

「製品の完成度が厳しく求められるので、納品しても2〜3割が商品として認められずに返品されてきます。返品されない質の高い製品をつくるには、製造従事者の熟練や技術力の向上が必要ですから、今まで以上に切磋琢磨していきたいですね」。

**軌道に乗るまでには、まだ
日数がかかりますが、地道
にやります**

革のなめしから始まって、切断や色付け、縫製など、30数種類の工程を経てようやく商品となる革製品。

「作業所では、製造だけでなく、お客さまの注文に応じてオリジナルの製品もつくっています。また、革製品の修理もしていますので、愛着ある革製品の再生も当作業所にお任せください。将来は、営業活動にも力を入れて、メーカーからの受注生産だけでなく、「瑞樹」独自のものもつくっていきたくと考えています。経営は大変ですが、障害をもつ方の自立に向けて、これからも地道にやっていますよ」と自己資金を設備や運営に投入しているという今川さんの情熱の灯は輝きを増しています。



きらり

KIRARI

いまがわみずお

今川瑞夫さん

製造作業や生活の訓練を通して、身体に障害をもつ方が自立を目指す身体障害者地域共同作業所・革工房「瑞樹」が市内中央町5丁目1のプラザファイブ1階にオープンして1年半。

同作業所は、個人が開設している施設では市内唯一のもので、代表を務める今川さんに話を聞きました。

**革製品の製造と販売
で、障害をもつ方の
自立のお手伝い。**

昭和15年9月生まれ。57歳。

平成9年4月にオープンした身体障害者地域共同作業所・革工房「瑞樹」の代表。「共に支え」「共に歩む」という地域福祉の実践者で、市内外の福祉関係者からの期待も大きい。

登別市教育委員会は、急激な児童生徒数の減少に伴い（「中学校卒業者の見込み数」参照）、将来、市内の公立高等学校がどうあるべきか、登別市「公立高等学校の新しい在り方を考える会」や市民の意見などを参考にし、その構想をまとめました。

7月6日には、北海道教育委員会へ登別市が望む公立高等学校の構想を提出し、生徒一人ひとりがいきいきと学習できる教育環境の充実を図るよう要望しました。今号では、その概要についてお知らせします。

高等学校の将来構想

成長が著しく、変化の激しい多感な時期にある子どもたちに対する教育は、柔軟で弾力的に対応していかなければならないと考えます。

これからの高等学校は、市町村の規模などに応じた学校の配置、また、中卒者



▲登別南高校

若者たちの輝く将来と共に歩む高校を

の増減に対応した間口の操作などに重点がおかれていたこれまでの方針を改め、生徒の多様化した学習ニーズにこたえ、生徒一人ひとりの能力・適正などに応じて個性を伸ばすことのできる教育機能を完備させていくことが大切です。

教育委員会は、これらのことを踏まえ、次の3点を将来構想の柱としてまとめました。

一 二 目 的 柱

学校としての基本理念を明確に

高等学校教育における基礎的・基本的学習内容や方法については、すべての生徒を対象に一律に考えるのではなく、生

徒の実態に応じて学校ごとに設定するなど、「学校としての基本理念を明確」にし、個性を最大限に伸ばすことを狙いとした選択の幅の広い教育が推進できるような多様なタイプの高校が設置されていくことが大切であると考えます。

二 二 目 的 柱

生徒の個性を重視した新しいタイプの高校を

生徒一人ひとりの興味や関心、能力や適性などに応じた行き届いた教育ができ、進路の変更などが容易である学校、さらには、さまざまな学習を通して自己の能力や適性などを把握して自らの進路を選択していくことができる学校が求め

中学校卒業者の見込み数

胆振第一学区				
年度	登別市	室蘭市	計	対前年
10	646	1,190	1,836	
11	659	1,159	1,818	△18
12	616	1,012	1,628	△190
13	572	924	1,496	△132
14	571	890	1,461	△35
15	556	856	1,412	△49
16	580	792	1,372	△40
17	529	741	1,270	△102
18	473	754	1,227	△43
10~18	△173	△436	△609	

※平成10年度胆振管内公立高等学校適正配置計画地域別検討協議会資料から



▲登別高校

具体的には、「普通科単置」の学校ではなく、「職業教育をも取り入れた総合学科などを含む新しいタイプの高等学校」の設置が必要と考えます。

三 三 目 的 柱

ゆとりある教育の実現を目指した登別高校の早期改築を

ゆとりある豊かな教育を実現するにふさわしい40人以下の適正な学級定員規模を確保するとともに、現状8間口を維持し、現在進行している登別高校の改築計画についても、これを機会に改築校の学科構成についても新しいタイプのものにするなど、早期の改築を要望します。

その際、登別南高校が学校教育、そして、地域の教育に対して果たしてきた実績と役割は大きいものがあり、登別高校の改築との関連で存続に関する問題が措置されるべきものではなく、現状の維持を強く求めます。

ふるさと生涯学習

とき 9月20日(日) ところ 川上公園・市民会館

10周年記念フェスティバル

人生80年時代が到来し、精神的、文化的豊かさを求める学習意欲が高まっています。生涯を通じて自分にふさわしい学習を見つけ、いつまでも学ぶ喜びを持ち続ける「生涯学習」は、私たちが生きがいのある豊かな人生を送るために、最も必要とされているもの一つです。

市は、この生涯学習の推進に本格的に取り組み、10年目を迎えた今年、川上公園と市民会館を会場に「ふるさと生涯学習10周年記念フェスティバル」を開催します。また、フェスティバル開催に併せて、川上公園を会場に「ふるさとスタディ広場」(ふるさと広場実行委員会主催)と「市民スポーツフェスティバル」(文化・スポーツ振興財団主催)を開催します。

会場1 川上公園会場

11時45分～14時40分(雨天時は市民会館)

①オープニングアトラクション(梶別中学校吹奏楽部)

②生涯学習実践発表その(1) (レクダンス群舞)

③郷土芸能発表その(1) (鶯別子ども獅子舞、梶別駒踊り)

④ジャグリングショー (大道芸)

⑤郷土芸能発表その(2) (札内神楽獅子舞、登別温泉中学校熊舞、梶別鉦山獅子舞)

⑥生涯学習実践団体・個人表彰式

⑦生涯学習実践発表その(2) (登別太鼓同好会、のぼりべつ舞・舞・舞)

※登別物産会による物産展(12時～14時40分)も開催しています。

会場2 市民会館会場

◆展示コーナー(9月17日(木)～20日(日) 9時～17時30分)

◎生涯学習パネル展

◎布の絵本

◎木彫

◎切り絵

◎SLG(郷土資料館ボランティア作品)

◆親子映画祭(9月20日(日) 15時～18時)

◎魚が空をとんだよ

◎ズッコケ3人組(時空冒険)

◎ひげ先生と子供たち

同時開催

市 民スポーツフェスティバル
- 10時～14時・川上公園 -
(雨天中止)



- ◎ 駅伝競争
 - ・10時45分…小学生男女スタート
 - ・12時…中学生男女、高校・一般男女スタート
- ◎ スポーツ体験コーナー (11時～13時)
 - ・パークゴルフ (ホールインワンゲーム)
 - ・ティーボール (ホームランゲーム)
 - ・輪投げ (得点ゲーム)
 - ・ユニホック (ホッケーゲーム)
 - ・ベタンク (標的ボールゲーム)

ふるさとスタディ広場
- 12時～14時30分・川上公園 -
(雨天時は市民会館)



- ◎ 学び・遊び・体験コーナー
 - ① 学び体験 (魚拓、たこづくり、竹とんぼづくり、絞り染め、陶芸)
 - ② 遊び体験 (竹とんぼ、竹馬、たこあげなど)
 - ③ 昔の食べ物体験 (ドン、せんべい)
 - ④ 福祉機器展示体験
- ◎ 軽食コーナー (そば、うどん、フランクフルト、ジュース)
- ◎ 緑日コーナー (わたあめ、射的、くじ引きなど)

会場



問い合わせ

- ◎ 10周年記念事業、ふるさとスタディ広場教育委員会 (☎11100)
- ◎ 市民スポーツフェスティバル 文化・スポーツ振興財団 (☎11116)

あらかると

リサイクル川柳・標語を募集します

登別市衛生団体連合会は、ごみの減量化とリサイクルをテーマにした川柳と標語を募集します。採用作品は、ごみの減量化とリサイクルへの関心を高めてもらうために、登別市衛生団体連合会と市が発行するパンフレットなどに使用されます。

- ▼**主題** ごみの減量化・リサイクルをテーマにしたもの
- ▼**対象** 市内に居住する小学生以上の方
- ▼**申込方法** ①川柳・標語の両方、またはいずれか1人各1点とします
※未発表の自作品に限ります
②住所・氏名・年齢(学校名・学年)・電話番号を明記し、はがきまたは封書で、9月30日(水)(当日消印有効)までに登別市衛生団体連合会事務局(〒059-0002 幸町2丁目4 環境資源課内)へ申し込みください
- ▼**審査方法** 選考審査会を設置し、厳正に審査します
- ▼**賞** 大賞1点、金賞4点、銀賞4点、銅賞4点、佳作若干

※小中学生の作品には、別の賞を設けます。

▼**その他** 採用作品の著作権は、登別市衛生団体連合会に帰属します。また、作品は返却しませんのでご了承ください

▼**申し込み・問い合わせ** 登別市衛生団体連合会事務局 (環境資源課内 ☎20005)

65歳以上の方へ郷土資料館 無料入館のお知らせ

9月15日の「敬老の日」にちなみ、65歳以上の方の郷土資料館の入館料を無料にします。

- ▼**無料期間** 9月5日(土)～9月15日(火) (ただし、7日(月)と14日(月)は休館日)
- ▼**開館時間** 10時～17時
- ▼**対象** 市内に居住する65歳以上の方
- ▼**問い合わせ** 郷土資料館 (☎1339)

市民見学会に

参加しませんか

私たちのまち、登別市の姿を市民のみなさんに見学していただくため、市民見学会を開催します。長い間住んでいても、意外と知らないまちの魅力を再発見してみませんか。

- ▼**見学日** 9月22日(火)・23日(水)・24日(木) (雨天決行)
- ▼**出発時間** 市役所9時、婦人センター19時15分、鷺別公民館9時40分
- ▼**対象** 市内に居住する方

▼**定員** 各日30人(定員を超えた場合は抽選)

▼**見学施設** 亀田記念公園、若山浄化センター、しんた21、清掃工場、新ごみ処理施設(建設中)、産業廃棄物処理場、グリーンコート三愛など(変更の場合あり)

- ▼**参加料** 無料
- ▼**持ち物** 昼食、雨具
- ▼**申し込み・問い合わせ** 9月18日(金)までに企画広報室 (☎1122)

祝日はごみを

収集していません

市は、祝日とごみの収集日が重なった場合、その日はごみの収集を行いませんので、ごみステーションにごみを出さないでください。収集しない日にごみを出すと、カラスや猫がごみをあさるため、ごみステーションの周辺が不衛生となったり、収集されないごみが交通の妨げになり、事故を引き起こす原因にもなります。

また、収集されないごみは地域の美観を損ないますので、ごみの排出ルールを守り、美しく住み良いまちづくりにご協力ください。

- ▼**問い合わせ** 清掃業務課 (☎2958)

までの動物愛護週間にちなみ、子犬・子猫の新しい飼い主さがしとペットの無料検診・飼育相談を行います。

- ▼**月日** 9月23日(水) (小雨決行)
- ▼**時間** ○新しい飼い主さがし：受付10時、決定10時30分 ○無料検診・飼育相談：10時～12時
- ▼**場所** 鷺別公民館前広場
- ▼**経費** 未登録の犬の新しい飼い主になる方は、登録料3千円と狂犬病予防注射料3千40円
- ▼**※** 子犬・子猫を譲りたい方は、事前に胆振支庁環境生活課に連絡の上、当日連れてきてください

▼**問い合わせ** 胆振支庁環境生活課 (☎9131)

創立45周年記念

幌別駐屯地一般開放

- ▼**月日** 9月13日(日)
- ▼**時間** 9時30分～15時30分
- ▼**場所** 陸上自衛隊幌別駐屯地
- ▼**内容** 模範売店、装備品展示、ジープ試乗、第7師団音楽隊・北海自衛太鼓の演奏など
- ▼**問い合わせ** 陸上自衛隊幌別駐屯地第1科広報班 (☎2011)

'98ツール・ド・北海道国際大会

9月20日(日)、『'98ツール・ド・北海道国際大会』のロードレースとしての最終ステージが、登別市役所前をスタート地点に開催されます。この大会は、北海道の雄大な自然の中で、各都市間を自転車で走破する国際的な競技です。標高800mのオロフレ峠越えの過酷なレースとなりますので、みなさんの大きな声援をお願いします。

コース路線図と通過予想時刻



交通規制のお知らせ

大会のコースには、道路の左側車線を使用します。選手の通過時間帯(予想時刻の5分前から)はコース内への車両の乗り入れや歩行者の横断が禁止されますので、レース中は係員の指示に従ってください。ご理解とご協力をお願いします。

▼**問い合わせ** 社会教育課 (☎1100)

富良野塾公演 1998

今日悲別が



このまちが 好き

心に響く

生身のエネルギー

日本全国、ニューヨークで、
たくさんの人に大きな感動を
与え、'97年秋のカナダ横断公
演では高い評価を得た話題作。
改稿、再演を重ねた最高の
舞台が今、あなたの心にあふ
れるような感動を呼び起こし
ます。

◎富良野塾登別公演「今日、
悲別で」

▼日時 10月9日(金) 開場18
時、開演18時30分

▼場所 市民会館大ホール

▼入場料 前売券3千円、当
日券3千500円

※なお、小学4年生以下の入
場はお断りしますのでご了
承ください。

▼チケット取扱先 市民会館、
総合体育館、登別観光協会、
志賀総合食料品店イースト

店・中島店、ブックアベニ
ユーいりえ若草店・白老店、
まことや(アーニス内)、セ

ブンイレブン登別東店、室
蘭市文化センター、だて歴

史の杜カルチャーセンター、
スーパークまがい(白老町)

▼問い合わせ 文化・スポー
ツ振興財団(☎011-116)

となりまち

ホットライン

室蘭市

「市場まつり」へどうぞお越しください

中央卸売市場が開設されて30年を迎えるのを記念
し、「市場まつり」が開催されます。即売会や模擬
せりなど、さまざまな催しがいっぱい会場へどう
ぞお越しください。

▼日時 9月13日(日) 10時～14時

▼場所 中央卸売市場(室蘭市日の出町2丁目)

▼内容 水産物即売会、マグロの解体実演と即売、
ニジマスのつかみどり、青果物の模擬せりと即売
うまいものコーナー、よさこいソーランなど

※先着1千人に記念品を差し上げます。

▼問い合わせ 中央卸売市場(☎011-440001)

伊達市

秋のカルチャーセンターは熱い!

◎ネイチャーサウンド⁹⁸

VOICEと細坪基佳(元ふきのとうメンバー)
のコンサート。

▼日時 9月13日(日) 開演18時

◎ファイブ・オクロック・シャドウ・コンサート
ポプスとロックをアカペラ(無伴奏)で。

▼日時 10月5日(月) 開演19時

◎共通

▼場所 だて歴史の杜カルチャーセンター大ホール

▼入場料 全席指定・前売り4千円(当日4千500円)

▼チケット取扱先 エルム多米楽器室蘭店、カルチ

ャーセンター窓口、各ブレイガイド

▼問い合わせ だて歴史の杜カルチャーセンター

(☎0114222-1515)



この広報紙は再生紙を使用しています。